

第45回 県政に関する世論調査の結果について

平成25年5月24日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成24年度2回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的内容としては、「県政全般に関する意識調査」、「治安に対する意識と警察に求めること」、「医療」、「高齢者が地域で暮らし続けるための施策」、「人権問題」、「文化芸術活動」、「読書活動」、「環境保全に関する取り組み」、「レジ袋の削減」、「ワーク・ライフ・バランス」、「食育」の11項目について調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法(郵送配付 - 郵送回収)

(5) 調査時期 平成24年11月21日～12月10日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,513(50.4%)

3 調査の項目

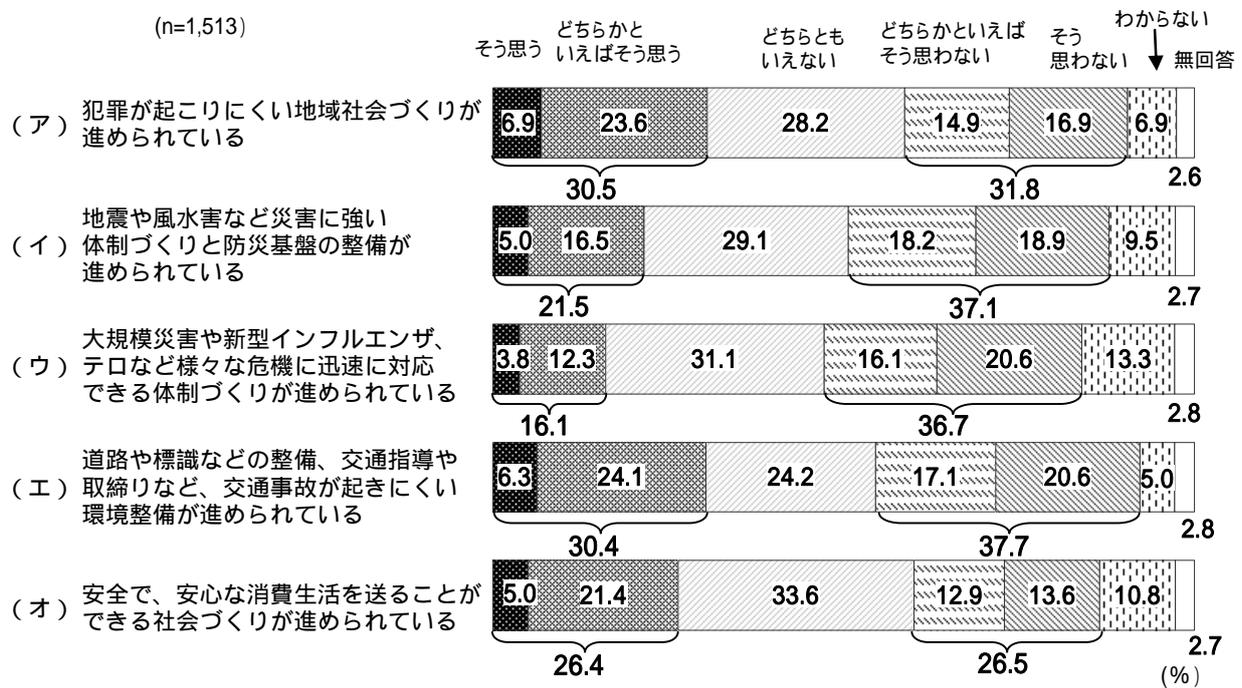
県政の主要課題

県政全般に関する意識調査
県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
医療について
高齢者が地域で暮らし続けるための施策について
人権問題について
県民の文化芸術活動について
県民の読書活動について
環境保全に関する取り組みについて
レジ袋の削減について
ワーク・ライフ・バランスについて
食育について

4 調査の結果

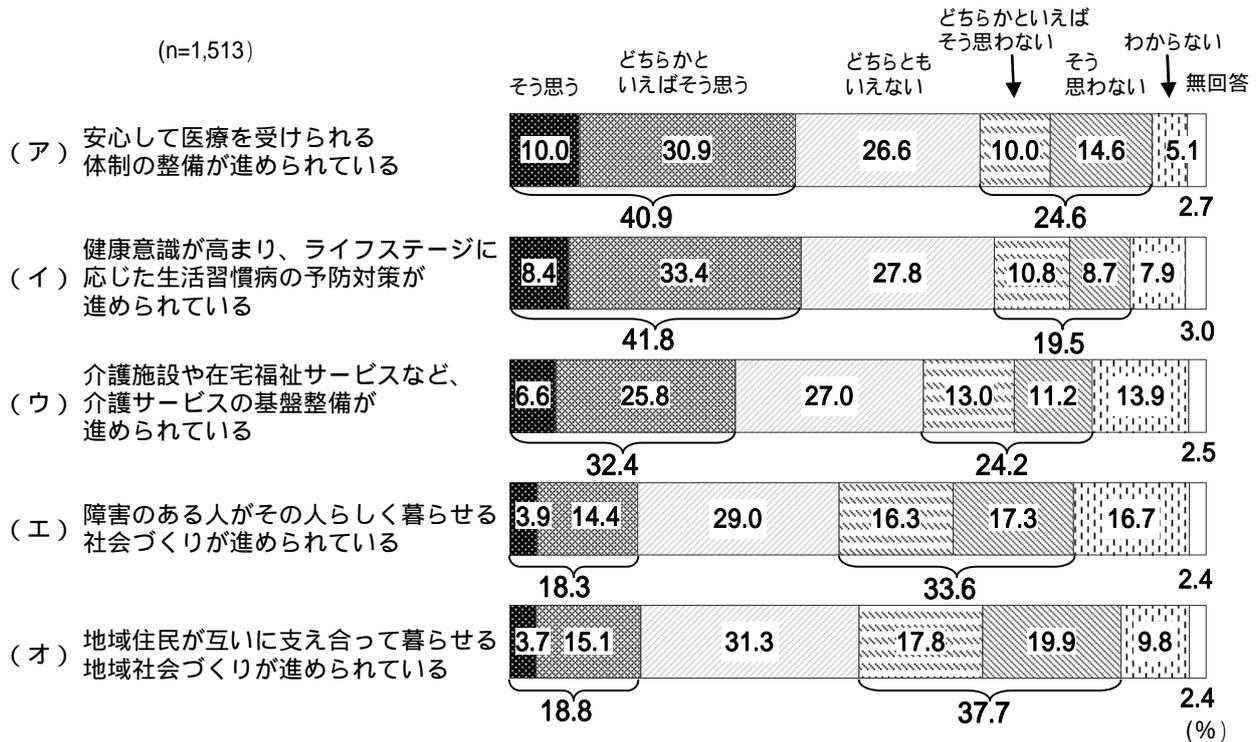
1 県政全般に関する意識調査

(1) 暮らしの安全・安心に関する意識



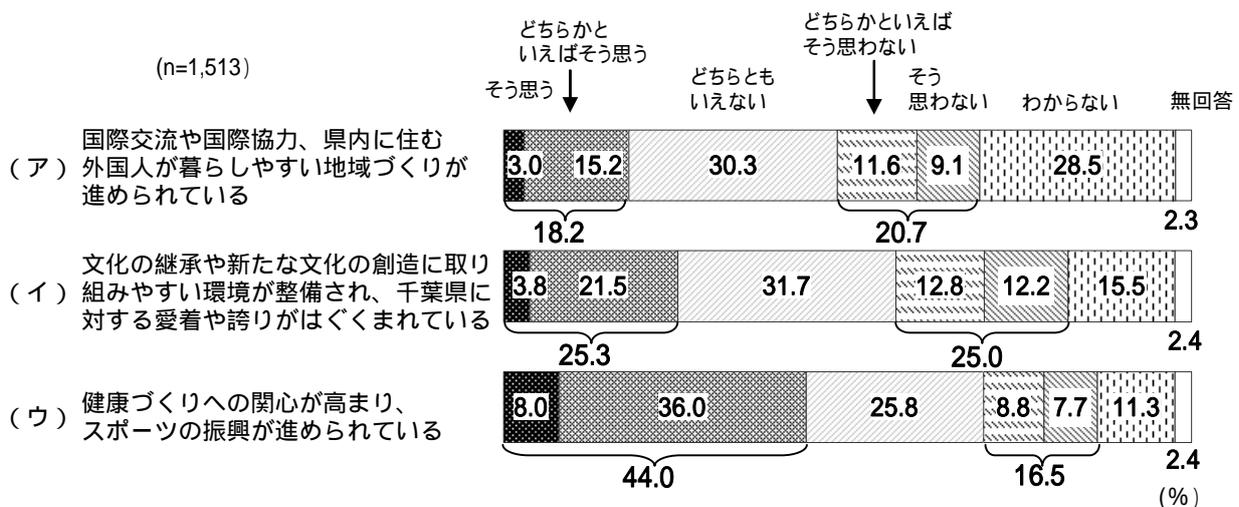
暮らしの安全・安心に関する5つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は、＜(ア)犯罪が起これにくい地域社会づくりが進められている＞(30.5%)が3割となっている一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』では、＜(エ)道路や標識などの整備、交通指導や取締りなど、交通事故が起きにくい環境整備が進められている＞(37.7%)、＜(イ)地震や風水害など災害に強い体制づくりと防災基盤の整備が進められている＞(37.1%)が約4割となっている。

(2) 医療・福祉・健康づくりに関する意識



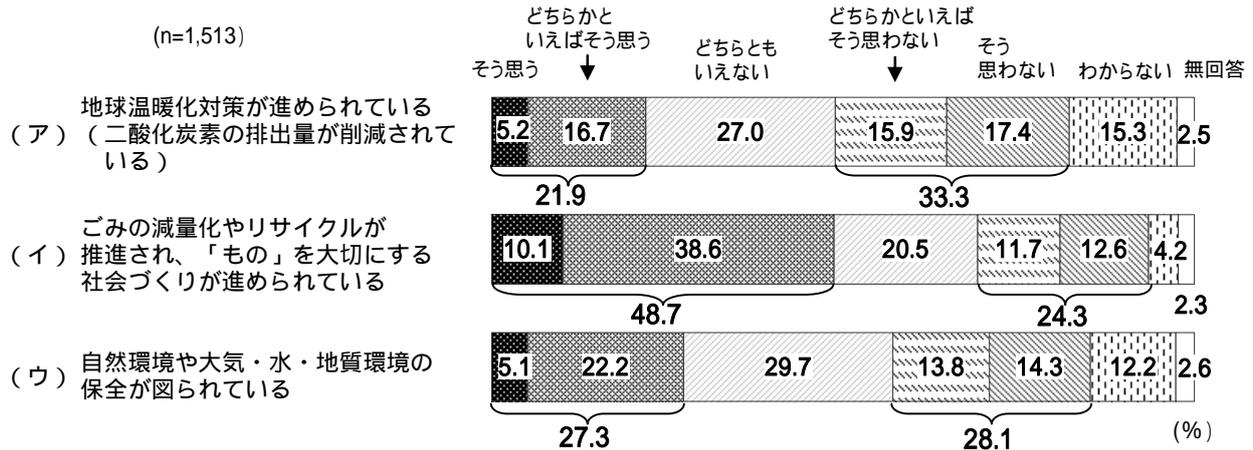
医療・福祉・健康づくりに関する5つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は、＜(イ)健康意識が高まり、ライフステージに応じた生活習慣病の予防対策が進められている＞(41.8%)、＜(ア)安心して医療を受けられる体制の整備が進められている＞(40.9%)で4割以上となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』では、＜(オ)地域住民が互いに支え合って暮らせる地域社会づくりが進められている＞(37.7%)が約4割となっている。

(3) 国際交流、文化・スポーツ振興に関する意識



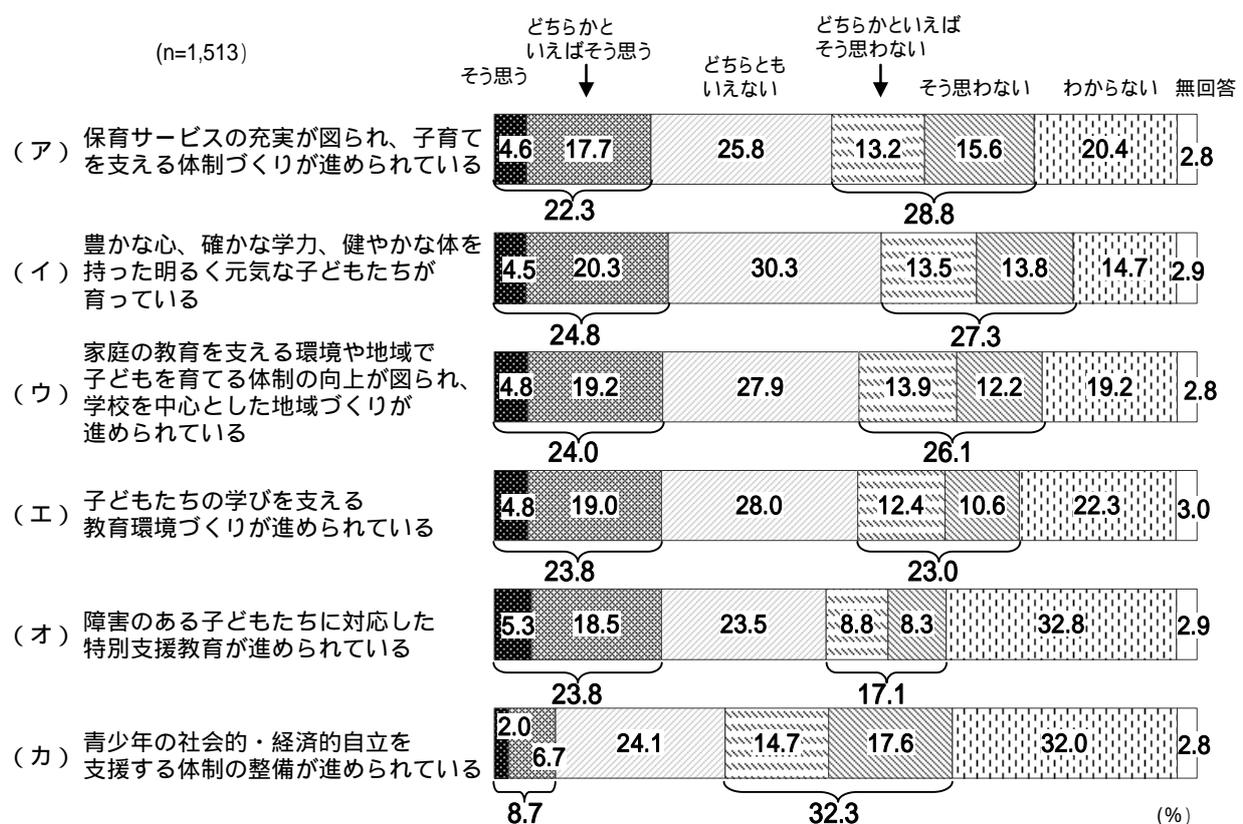
国際交流、文化・スポーツ振興に関する意識の3つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は、＜(ウ)健康づくりへの関心が高まり、スポーツの振興が進められている＞(44.0%)で4割台半ばとなっている。

(4) 環境問題に関する意識



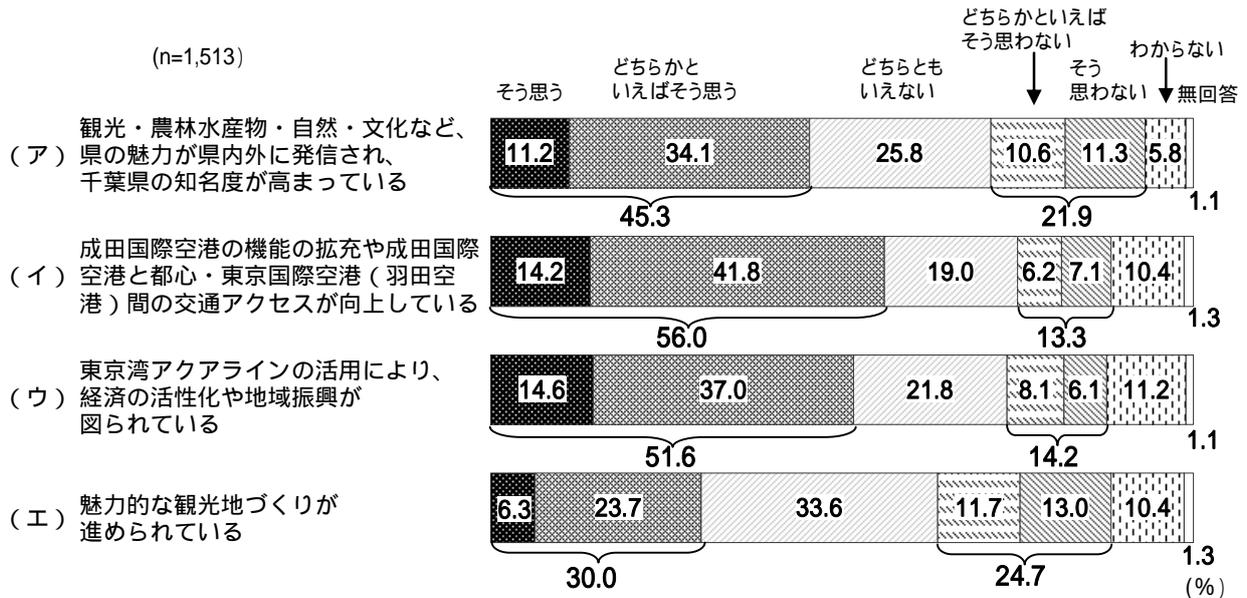
環境問題に関する意識の3つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は、<(イ)ごみの減量化やリサイクルが推進され、「もの」を大切に
する社会づくりが進められている>(48.7%)で約5割となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』では、<(ア)地球温暖化対策が進められている>(33.3%)で3割台半ばとなっている。

(5) 子育てや教育に関する意識



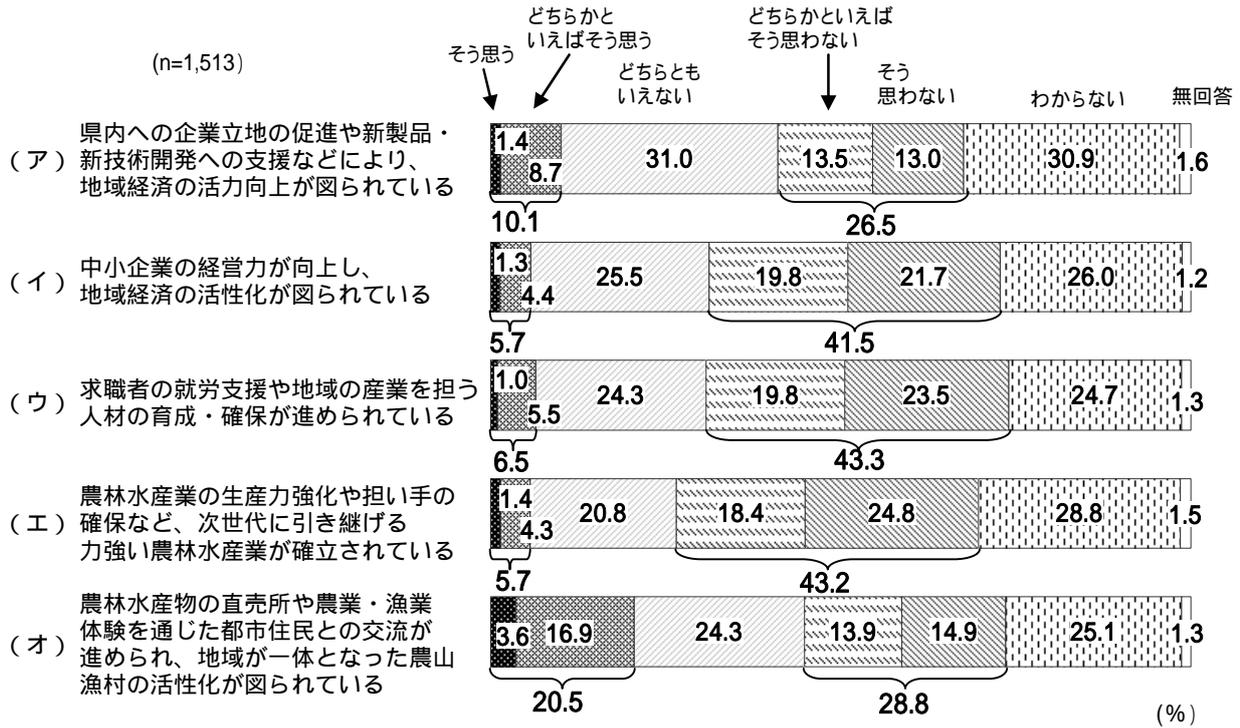
子育てや教育に関する意識の6つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』が<(カ)青少年の社会的・経済的自立を支援する体制の整備が進められている>(32.3%)で3割を超えている。

(6) 千葉県の魅力の増進に関する意識



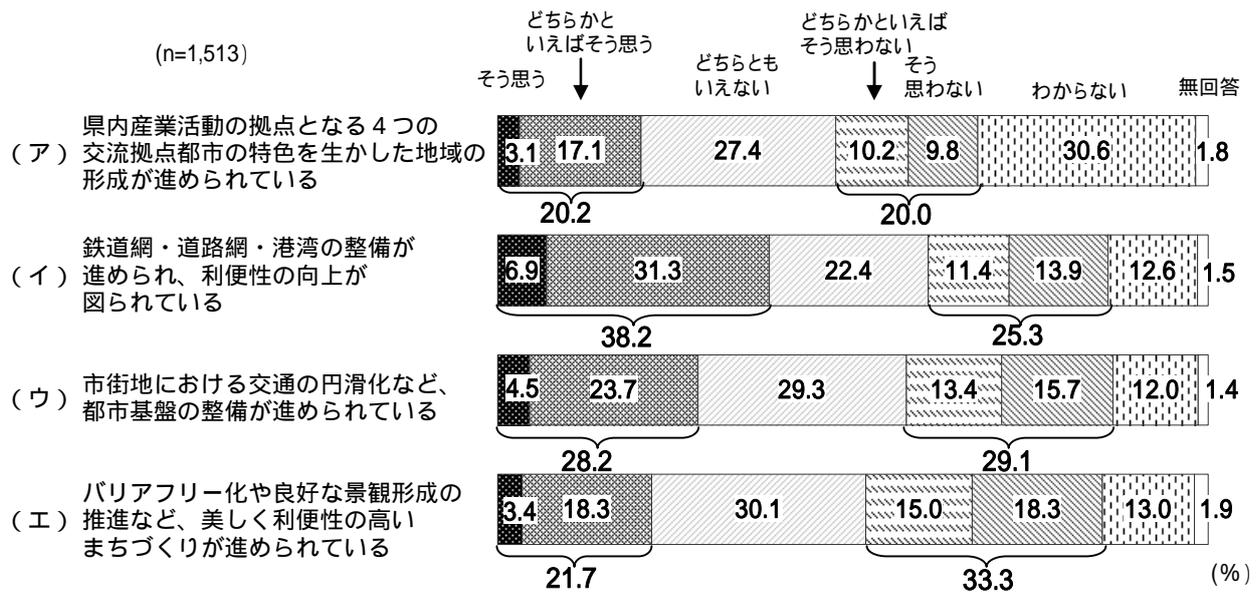
千葉県の魅力の増進に関する4つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が、<(イ)成田国際空港の機能の拡充や成田国際空港と都心・東京国際空港（羽田空港）間の交通アクセスが向上している> (56.0%)で5割台半ばと最も多く、次いで<(ウ)東京湾アクアラインの活用により、経済の活性化や地域振興が図られている> (51.6%)、<(ア)観光・農林水産物・自然・文化など、県の魅力が県内外に発信され、千葉県の知名度が高まっている> (45.3%)となっている。

(7) 商工業や農林水産業の活性化に関する意識



商工業や農林水産業に関する5つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』で多かったのは、<(ウ) 求職者の就労支援や地域の産業を担う人材の育成・確保が進められている> (43.3%)、<(エ) 農林水産業の生産力強化や担い手の確保などが図られ、次世代に引き継げる力強い農林水産業が確立している> (43.2%) が4割台半ばとなっており、以下、<(イ) 中小企業の経営力が向上し、地域経済の活性化が図られている> (41.5%) となっている。

(8) 県の基盤づくりに関する意識



県の基盤づくりに関する4つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』では<(イ) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、利便性の向上が図られている>(38.2%)が約4割となっている。一方「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』では、<(エ) バリアフリー化や良好な景観形成の推進など、美しく利便性の高いまちづくりがすすめられている>(33.3%)が3割台半ばとなっている。

《「県が今後力を入れていくべき分野や取組について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、374人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

弱者が安心して暮らせる県政(福祉、医療、教育の充実。公的機関の充実)。若い人の就職アップ(正規雇用、正規で!! 公的機関においても臨採が、非正規が多すぎます) 安定雇用、経済の活性化。
(女性・60~64歳・葛南地域)

千葉県は海と多くの小高い丘のある地形に恵まれている。この地域特色を生かした、観光と生涯スポーツの拠点として、日本国内だけでなく、世界の人々から評価される観光立県を目指す構想を実現する計画を立て、実行する。高速道及び高速鉄道の整備は必要条件である。

(男性・65歳以上・東葛飾地域)

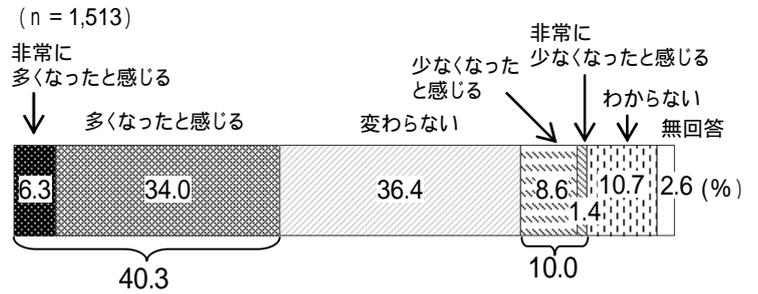
中小企業を中心とした新技術の開発にもっと支援をすべき。農村漁村の活性化にもっと支援を。

(男性・65歳以上・印旛地域)

2 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) 地域の犯罪の発生状況の変化

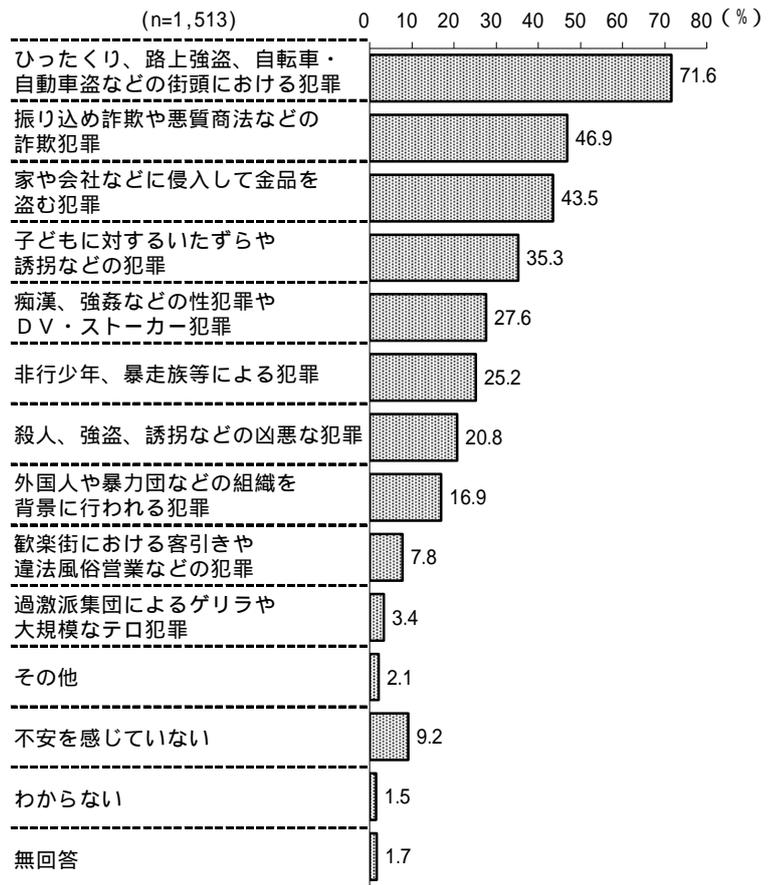
地域の犯罪の発生状況の変化を聞いたところ、「非常に多くなったと感じる」(6.3%)と「多くなったと感じる」(34.0%)を合わせた『多くなったと感じる』(40.3%)が4割となっている。一方、「少なくなったと感じる」(8.6%)と「非常に少なくなったと感じる」(1.4%)を合わせた『少なくなったと感じる』(10.0%)は1割である。「変わらない」(36.4%)は3割台半ばとなっている。



(2) 身近で不安を感じている犯罪

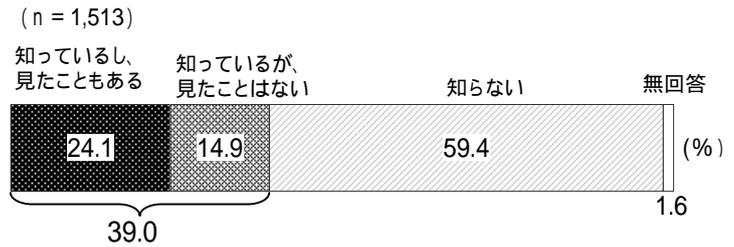
(複数回答:いくつでも)

身近で不安を感じている犯罪を聞いたところ、<ひったくり、路上強盗、自転車・自動車盗などの街頭における犯罪> (71.6%) が7割を超えており、次いで<振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪> (46.9%)、<家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪> (43.5%)が続く。



(3) 移動交番車の認知度

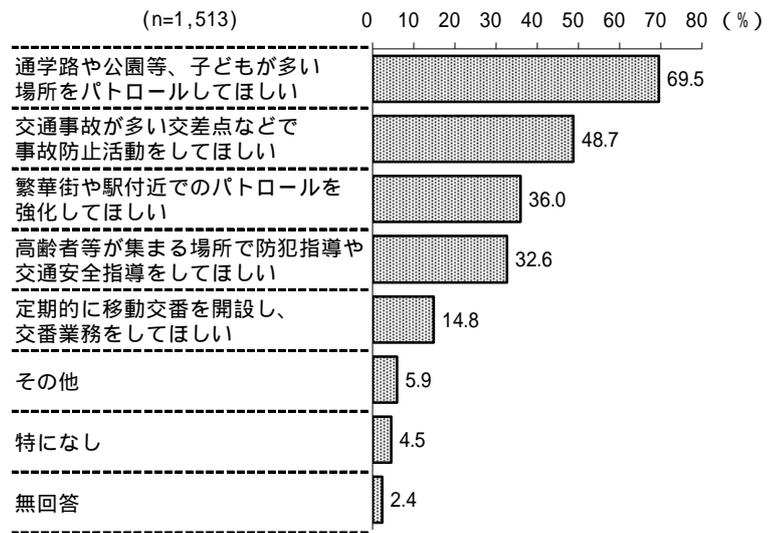
移動交番車の認知度を聞いたところ、「知っているし、見たこともある」(24.1%)と「知っているが見たことはない」(14.9%)を合わせた『知っている』(39.0%)が約4割となっている。一方、「知らない」(59.4%)は約6割となっている。



(4) 移動交番車の運用で期待すること

(複数回答 : いくつでも)

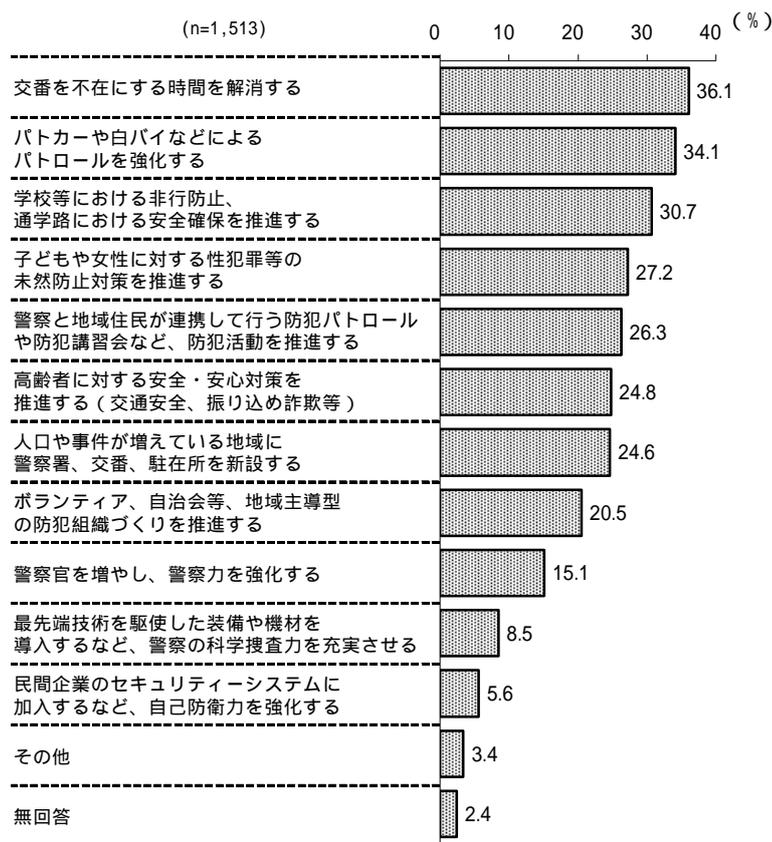
移動交番車の運用で期待することを聞いたところ、「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」(69.5%)が約7割、次いで「交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい」(48.7%)が約5割、「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」(36.0%)、「高齢者等が集まる場所で防犯指導や交通安全指導をしてほしい」(32.6%)となっている。



(5) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

(複数回答：3つまで)

安全で安心できる生活を守っていくために必要なことを聞いたところ、「交番を不在にする時間を解消する」(36.1%)、「パトカーや白バイなどによるパトロールを強化する」(34.1%)といずれも3割台半ばとなっており、次いで「学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する」(30.7%)となっている。



《「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、287人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

警察官やパトカーなどが居ることでの抑止力って思っている以上に有ると思うので、とにかく頻繁に目に入るような行動をして欲しいと思います。(女性・30代・千葉地域)

犯罪の防止には地域、近隣住民が防犯意識を共有し、自ら守ることが大切だ。そのため、警察による地域住民を対象とする防犯講習会を毎年実施し、その内容を広報(市町村の)紙にして、全ての住民に周知する。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

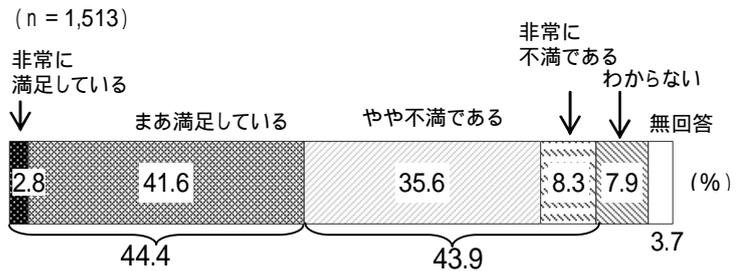
自転車が交通ルールを守るよう、取り締りをしてほしい。歩道を我が物顔で走り抜け、年寄りや子供があぶない思いをしている。自動車の違反にはきびしいが、自転車の違反を放置しているのはおかしい。(女性・50代・葛南地域)

振り込め詐欺は、頭が真っ白になっている被害者(被害者となる前)を周囲が注意深く観察し、強引に止めさせる方法しかないのではないのでしょうか?(男性・65歳以上・千葉地域)

3 医療について

(1) 県内の医療への満足度

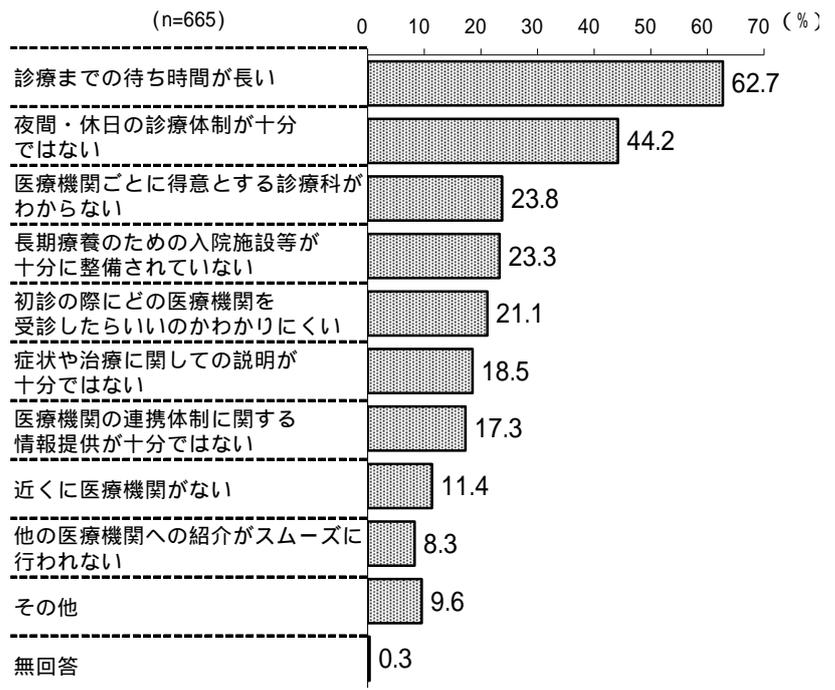
県内の医療への満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(2.8%)と「まあ満足している」(41.6%)を合わせた『満足している』(44.4%)が4割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」(35.6%)と「非常に不満である」(8.3%)を合わせた『不満である』(43.9%)も4割台半ばと二分している。



(1-1) 不満を感じること

(複数回答：3つまで)

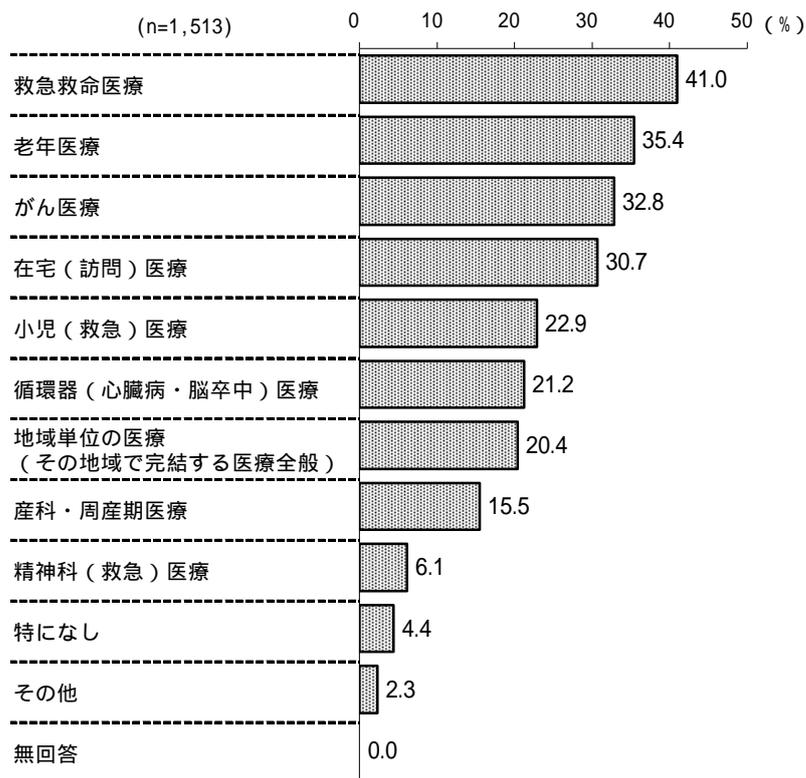
県内の医療が「やや不満である」「非常に不満である」と回答した人(665人)に不満を感じることを聞いたところ、「診療までの待ち時間が長い」(62.7%)が6割を超えており、次いで「夜間・休日の診療体制が十分ではない」(44.2%)、「医療機関ごとに得意とする診療科がわからない」(23.8%)、「長期療養のための入院施設等が十分に整備されていない」(23.3%)となっている。



(2) 今後、県に力を入れてほしい医療

(複数回答：3つまで)

県に力を入れてほしい医療を聞いたところ、「救急救命医療」(41.0%)が4割を超えており、次いで「老年医療」(35.4%)、「がん医療」(32.8%)、「在宅(訪問)医療」(30.7%)となっている。



《「医療について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、191人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

医療機関に大変差があり、受診したくとも他市町村は紹介状がないとできない。あまりの混雑に対処したらしいが、身近に頼れる医院がない場合は、大きな病院へ足が向くのは理解できる。地域格差は医療の分野にもあることを認識していただきたい。(女性・50代・海匝地域)

病名の付かない病気が多い世の中、何科に行ったら良いのか分からない方が沢山います。専門知識のある方へ相談をし、何科を受診したら良いなどの窓口があれば良いなと思います。

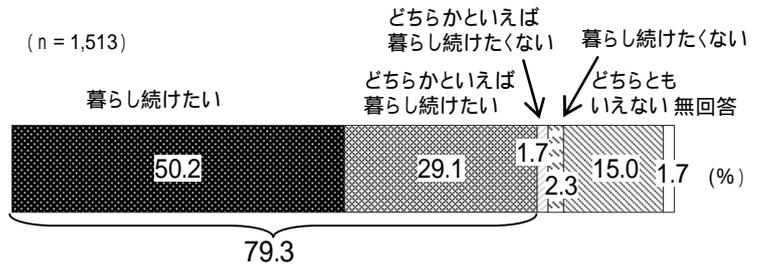
(女性・30代・千葉地域)

高齢者の多い地域に住んでいるので、老年医療を充実化して欲しい。(男性・40代・君津地域)

4 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

(1) 住み慣れた地域で暮らし続けたいか否か

介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らし続けたいかを聞いたところ、「暮らし続けたい」(50.2%)と「どちらかといえば暮らし続けたい」(29.1%)を合わせた『暮らし続けたい』(79.3%)が約8割となっている。

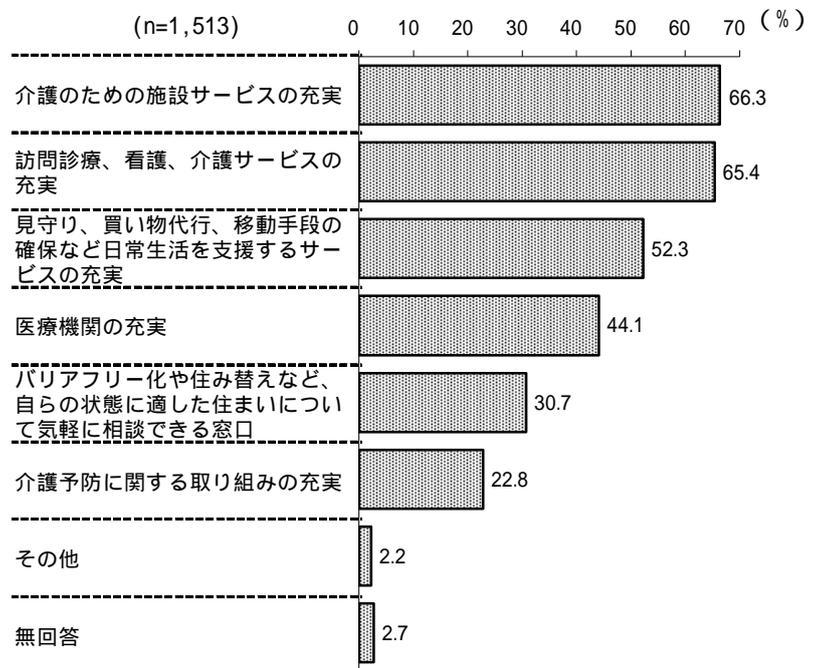


(2) 住み慣れた地域で暮らし続ける際に、必要なもの

(複数回答：いくつでも)

自身が介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なものを聞いたところ、

「介護のための施設サービスの充実」(66.3%)、「訪問診療、看護、介護サービスの充実」(65.4%)が共に6割台半ばで多く、次いで「見守り、買い物代行、移動手段の確保など日常生活を支援するサービスの充実」(52.3%)となっている。

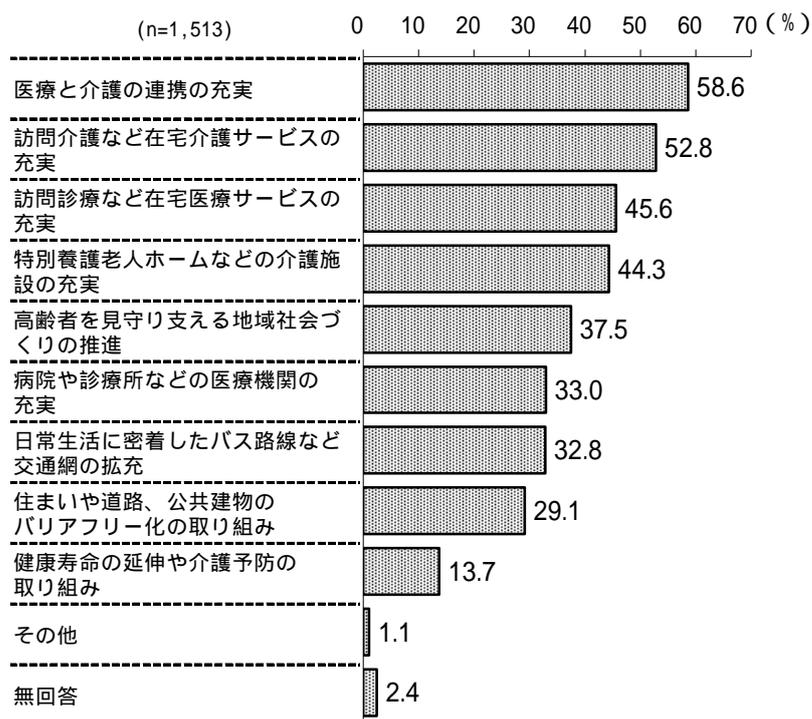


(3) 地域で暮らす高齢者を支えるために、県に求めること

(複数回答:いくつでも)

地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、県に求めることを聞いたところ、

「医療と介護の連携の充実」(58.6%)が約6割と最も多く、次いで「訪問介護など在宅介護サービスの充実」(52.8%)、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」(45.6%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設の充実」(44.3%)となっている。



《「高齢者が地域で暮らし続けるための施策について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、172人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

高齢者が買い物や食事に行けるように、送迎してほしい(交通の足になってくれると生活が楽しくなると思う)。(女性・60~64歳・夷隅地域)

介護する人のための、心身の健康をサポートする為の、サービス。悩み相談やリフレッシュの為の支援。(男性・50代・葛南地域)

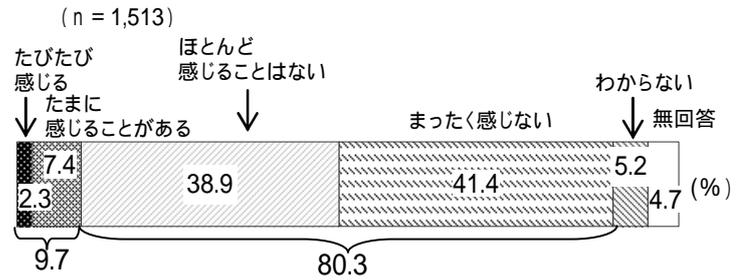
低所得者のための特別養護老人ホーム等、気軽に利用出来る介護施設を多く作ってほしい。現在の状況では少なすぎる。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

リハビリの徹底、一人暮らしサポート。一日中誰とも口をきかなかったなんてことがないように(生活状態把握、孤独死予防)訪問を。(女性・30代・葛南地域)

5 人権問題について

(1) 過去5年間に差別や人権侵害を受けた経験

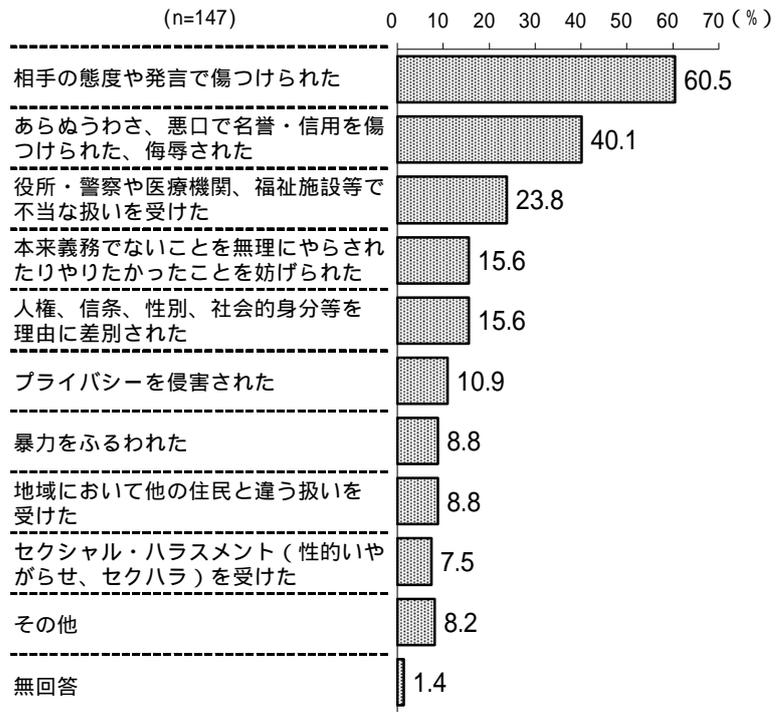
過去5年間に差別や人権侵害を受けた経験を聞いたところ、「たびたび感じる」(2.3%)と「たまに感じる」(7.4%)を合わせた『感じる』(9.7%)が約1割であった。一方、「ほとんど感じることはない」(38.9%)と「まったく感じない」(41.4%)を合わせた『感じない』(80.3%)が8割となっている。



(1-1) 差別や人権侵害を受けた内容

(複数回答: いくつでも)

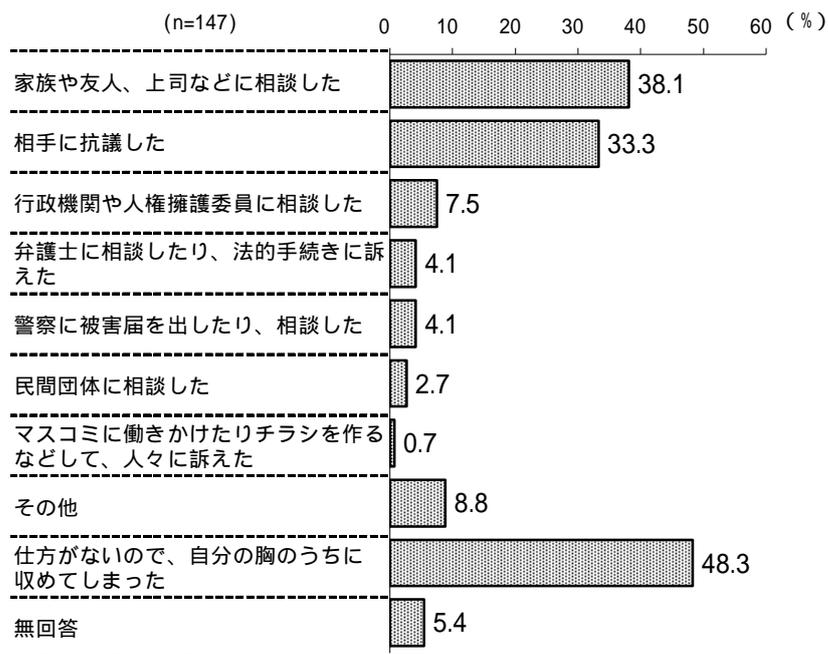
過去5年間に差別や人権侵害を受けた経験で「たびたび感じる」、「たまに感じる」と答えた人(147人)に、差別や人権侵害を受けた内容を聞いたところ、「相手の態度や発言で傷つけられた」(60.5%)が6割と最も多く、次いで「あらぬうわさ、悪口で名誉・信用を傷つけられた、侮辱された」(40.1%)、「役所・警察や医療機関、福祉施設等で不当な扱いを受けた」(23.8%)となっている。



(1 - 2) 差別や人権侵害を受けたときの対応

(複数回答 : いくつでも)

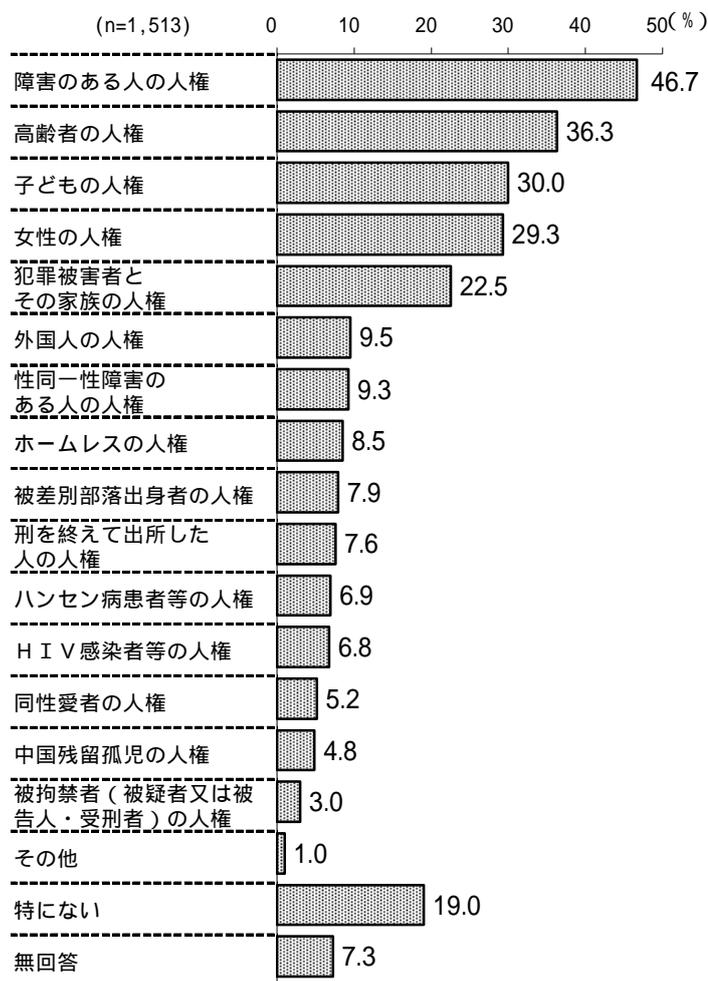
差別や人権侵害を受けた内容について答えた人 (147人) に差別や人権侵害を受けたときの対応を聞いたところ、「家族や友人、上司などに相談した」(38.1%) が約 4 割となっており、次いで「相手に抗議した」(33.3%) となっている。一方で、「仕方がないので、自分の胸のうちに収めてしまった」(48.3%) が約 5 割となっている。



(2) 人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきもの

(複数回答 : いくつでも)

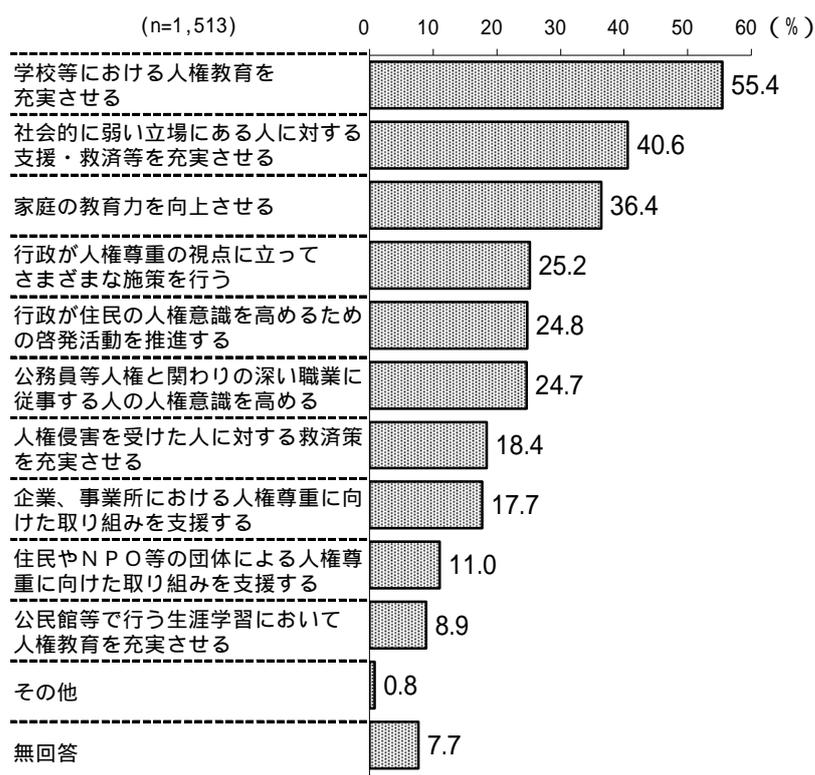
人権問題の解決のための啓発で力を入れるべきものを聞いたところ、「障害のある人の人権」(46.7%) が 4 割台半ばとなっており、次いで「高齢者の人権」(36.3%)、「子どもの人権」(30.0%)、「女性の人権」(29.3%) となっている。



(3) 人権が尊重される社会を実現するための県の取り組み

(複数回答:いくつでも)

人権が尊重される社会を実現するための県が取り組むべきことを聞いたところ、「学校等における人権教育を充実させる」(55.4%)が5割台半ばとなっており、次いで「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させる」(40.6%)、「家庭の教育力を向上させる」(36.4%)となっている。



《「人権問題について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、96人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

障害者に対する差別、人権を守るべき啓発活動を今後も進めるべきです。特に知的障害者に対する差別をなくすように。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

人権、そのことを深く考えたことが無かったのですが、書面で見ると確かに思う。今まで辛い思いをしなかったことに感謝。これからは広い目で世間を見て、人権を考えようと思います。

(女性・65歳以上・東葛飾地域)

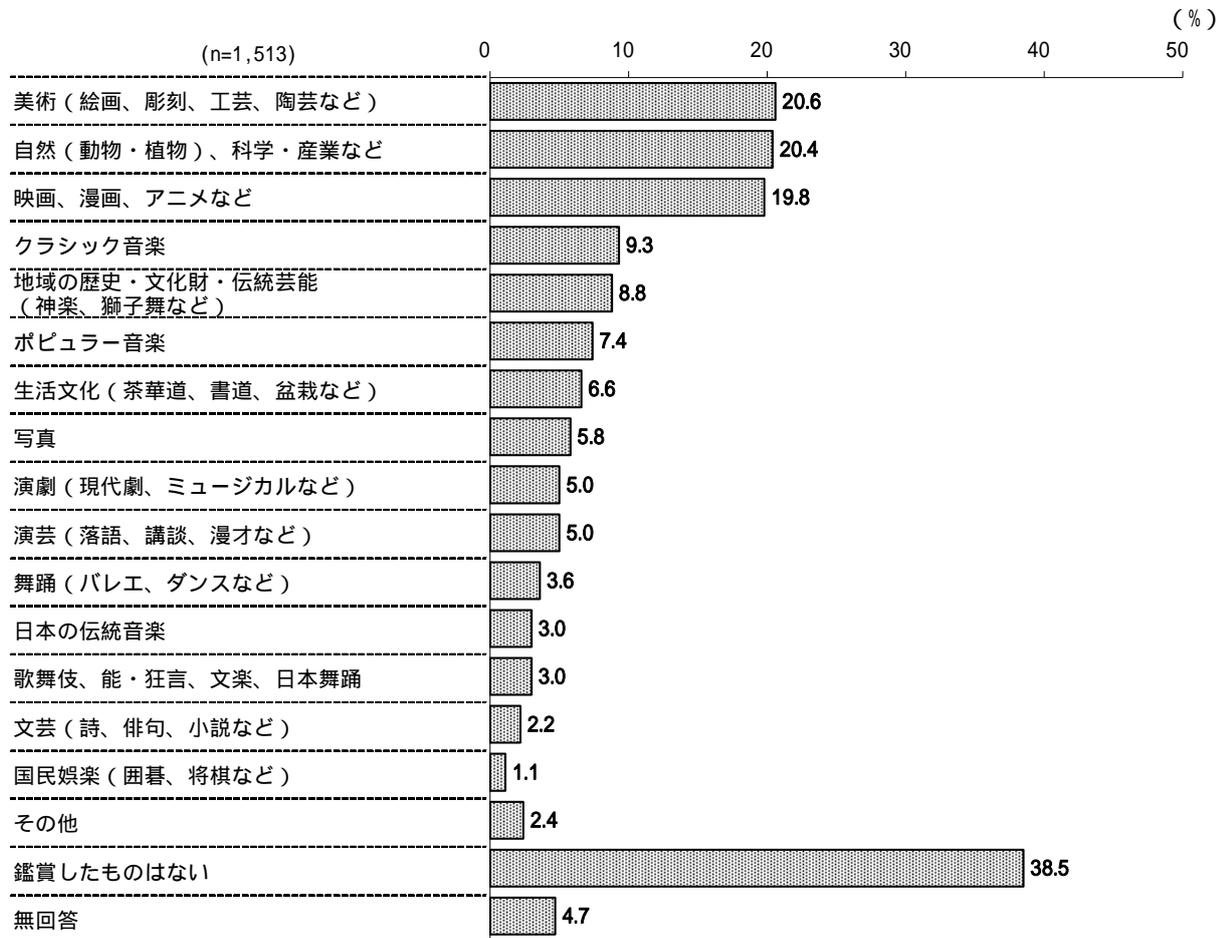
いじめを受けた経験がある芸能人を学校に招き、心の傷と、周りがどう対応すべきか、逃げる勇気などを話してもらおう。特に子供達への教育が重要だと思う。(男性・30代・千葉地域)

社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済等を充実させるだけでなく、自立をしてもらうことも考えるべき。(男性・50代・夷隅地域)

6 県民の文化芸術活動について

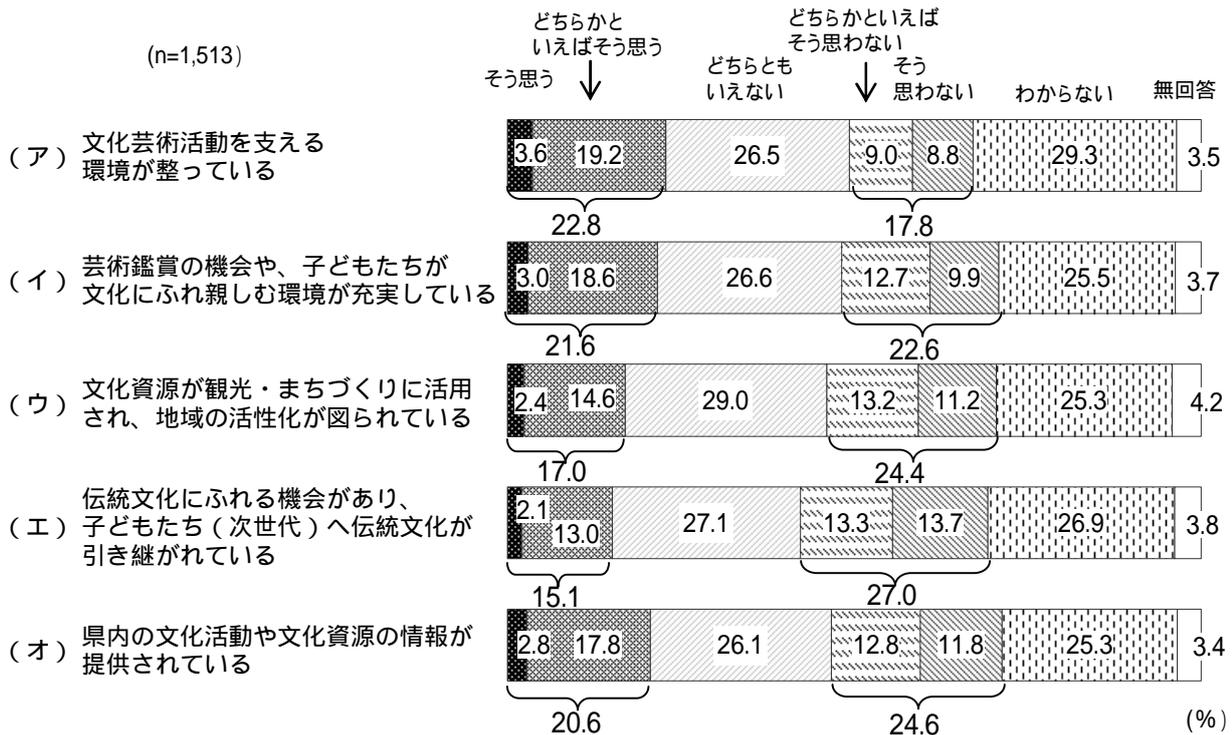
(1) 最近1年間に県内で鑑賞した文化芸術

(複数回答：いくつでも)



この1年間に県内の文化会館やホール、美術館・博物館などで直接鑑賞した文化芸術を聞いたところ、「美術 (絵画、彫刻、工芸、陶芸など)」(20.6%)、「自然 (動物・植物) 科学・産業など」(20.4%)、「映画、漫画、アニメなど」(19.8%)が2割前後となっており、一方、「鑑賞したものはなし」(38.5%)は、約4割となっている。

(2) 文化振興にあたっての県の取り組み

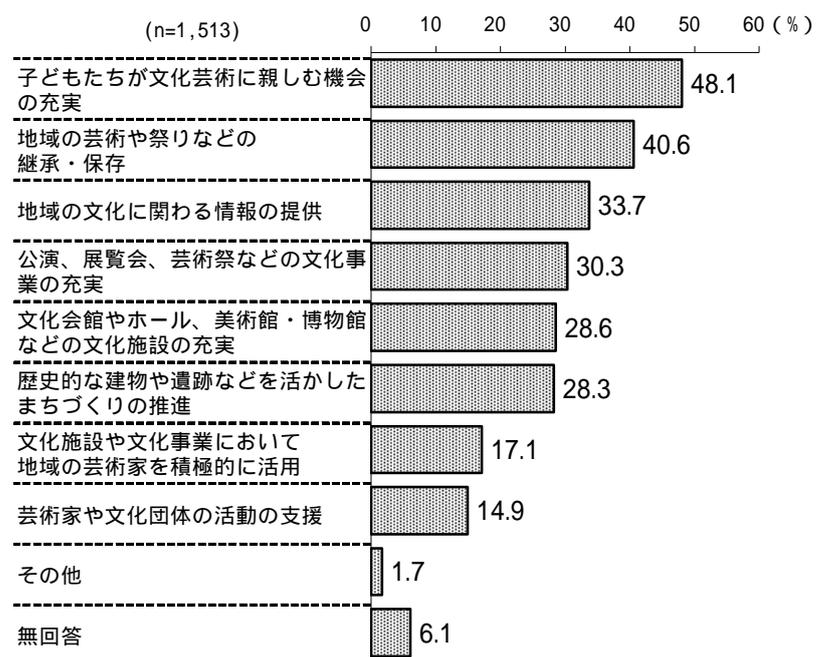


文化振興にあたっての県の取り組みに関する5つの項目について聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が最も多いのが＜(ア)文化芸術活動を支える環境が整っている＞(22.8%)で2割を超えている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』は＜(エ)伝統文化にふれる機会があり、子どもたち(次世代)へ伝統文化が引き継がれている＞(27.0%)が、他の項目に比べ多く約3割となっている。

(3) 文化的環境を満たすために必要なこと

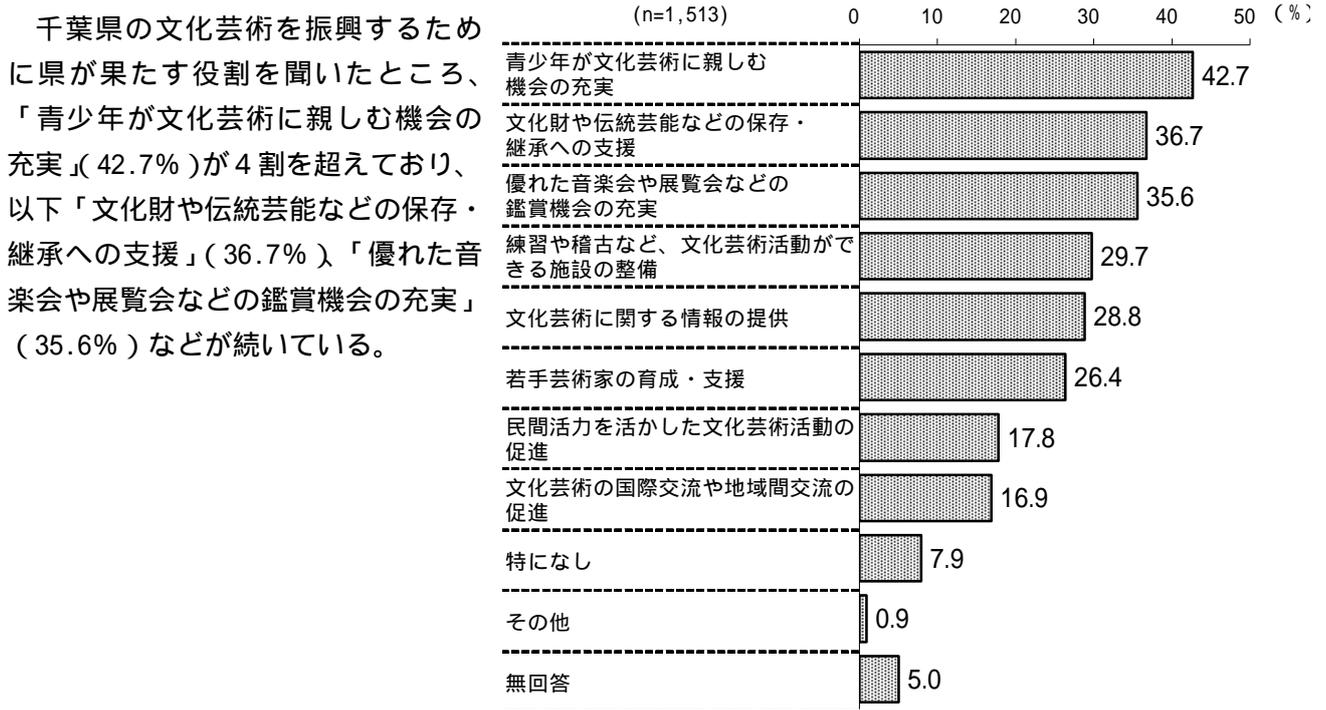
(複数回答:いくつでも)

地域の文化的環境を満たすために、必要なことを聞いたところ、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(48.1%)が約5割と最も多く、次いで「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」(40.6%)、「地域の文化に関わる情報の提供」(33.7%)となっている。



(4) 文化芸術を振興するために県が果たす役割

(複数回答:いくつでも)



《「県民の文化芸術活動について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、108人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

「歴史散歩」「ウォーキング大会」「お祭り」地域で「落語」等、たくさんの取り組みがされていて、色々参加したいという気分になりますが、その情報を知るとというのが非常に大変です。地域新聞には載っていますが、色んなエリアのものを見られる訳ではないので。もっとPR方法を考えて頂きたいです。(女性・30代・東葛飾地域)

鑑賞料金の低額化を望みます。公演等の機会を増加してほしいと思います。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

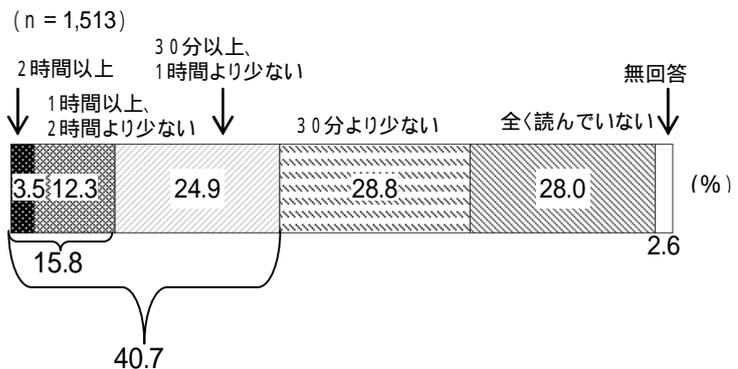
現在、伝統芸能の活動に参加しておりますが、老人福祉施設などへの訪問等で経費面で苦労しております。ボランティア活動なので十分な補助などは不要ですが、最少の費用を負担してもらえると助かります。(男性・60~64歳・千葉地域)

ヒップホップなど新しいものだけでなく、日本古来の文化や芸術ももっと伝承するように、多くの人に目を向けてもらえる場をつくるべきです(能や歌舞伎、狂言、漁師町の大漁旗、房総の太巻きなどなど、千葉ならではのものを...)。(男性・40代・千葉地域)

7 県民の読書活動について

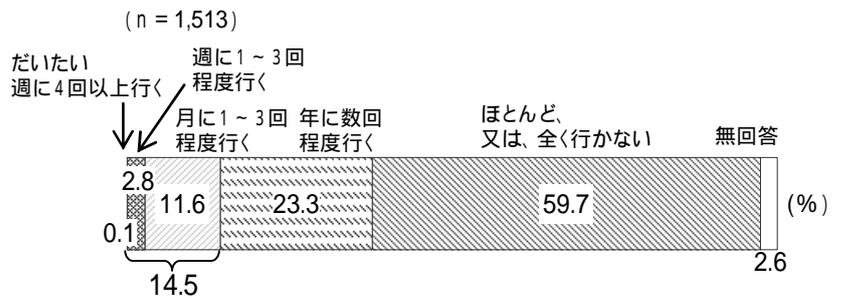
(1) ふだん読書に費やす時間

一日あたりどれくらいの時間、読書をするか聞いたところ、「2時間以上」(3.5%)と「1時間以上、2時間より少ない」(12.3%)を合わせた『1時間以上』(15.8%)は、1割台半ばとなっており、「30分以上、1時間より少ない」(24.9%)も合わせた『30分以上』(40.7%)では4割となっている。一方「全く読んでいない」(28.0%)は約3割となっている。



(2) 図書館 利用頻度

普段の図書館の利用頻度を聞いたところ、「だいたい週に4回以上行く」(0.1%)と「週に1~3回程度行く」(2.8%)、「月に1~3回程度行く」(11.6%)を合わせた『月に1回以上行く』(14.5%)は、1割台半ばとなっている。一方「ほとんど、又は、全く行かない」(59.7%)は、約6割となっている。

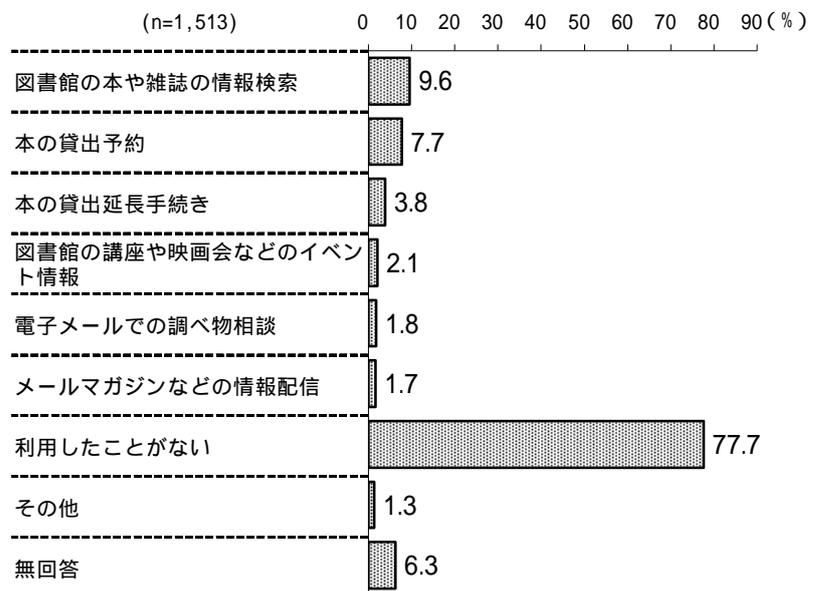


(3) インターネットを活用した図書館サービス

(3-1) すでに利用しているサービス

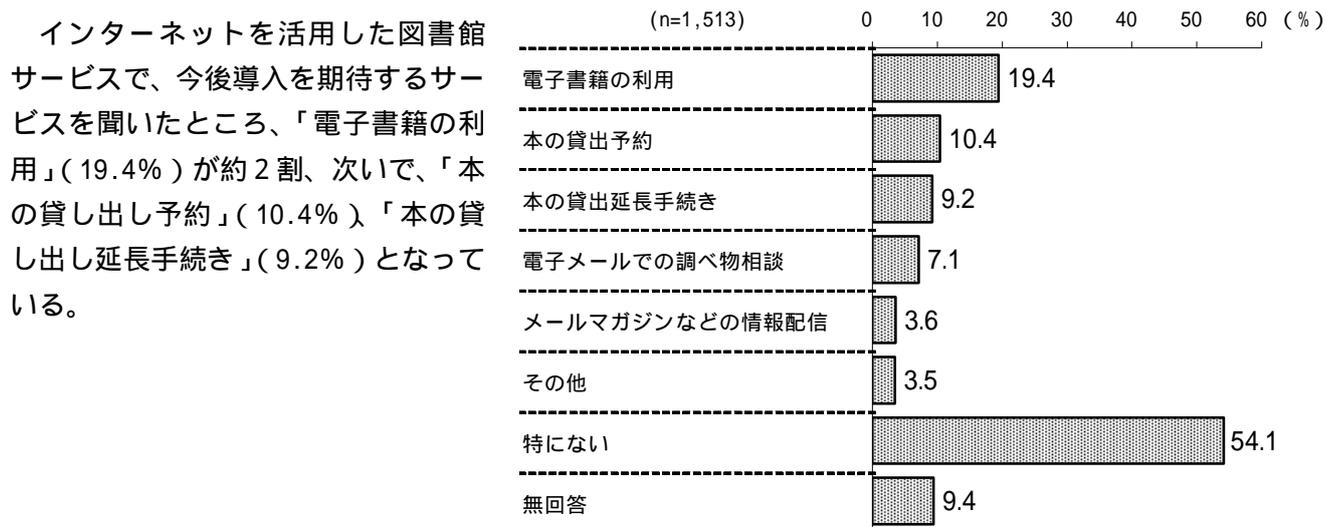
(複数回答: いくつでも)

インターネットを活用した図書館サービスですでに利用しているサービスを聞いたところ、「図書館の本や雑誌の情報検索」(9.6%)が約1割、次いで「本の貸出予約」(7.7%)と続いている。一方、「利用したことがない」(77.7%)は、約8割となっている。



(3 - 2) 導入を期待するサービス

(複数回答 : いくつでも)



《「県民の読書活動について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、124人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

子供に本を読んでもらいたくても遠いし、子供と荷物だけで重いのに本なんて持って帰れないし、面倒。移動図書館が家の近くを通ると楽。(男性・20代・千葉地域)

山間地域には図書館がない。パソコンが使えない。(女性・65歳以上・君津地域)

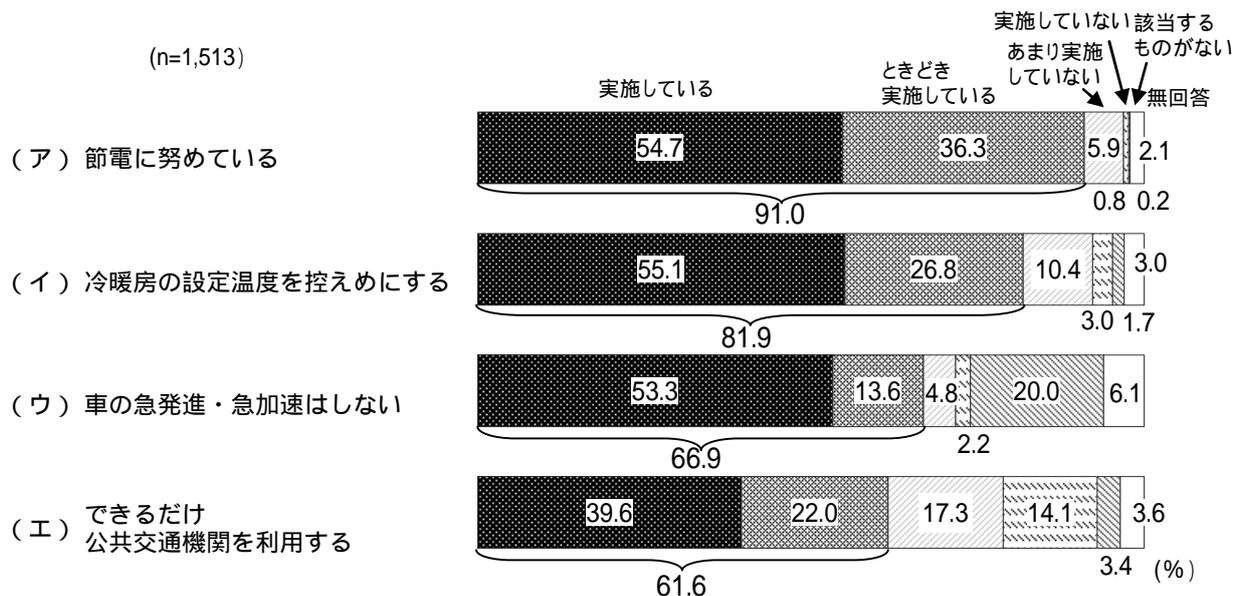
生涯学習社会の中心施設は図書館であると思う。県が市町の地域図書館増設に支援をしてほしい。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

読み聞かせはとても大事です。ゲームやタブレットが流行していますが、本は紙で読むべきと思っています。子供の読書量が減っている気がします。図書館を充実させ、本の素晴らしさを子供達に伝えるべきだと思います。(女性・50代・海匠地域)

平日に勤務している方々のために、夜間での貸し出しが容易にできるのであれば、積極的に活用したい(WEBで貸出予約ができ、貸出・返却のみの夜間窓口が設けられる等)。(女性・20代・葛南地域)

8 環境保全に関する取り組みについて

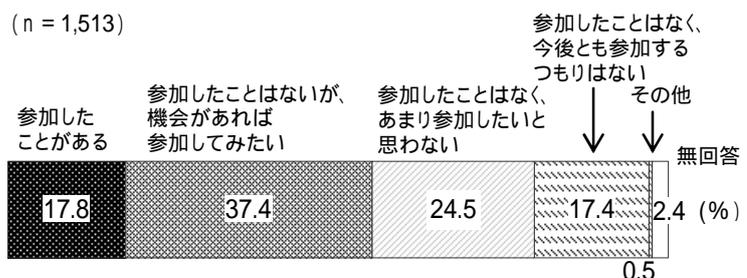
(1) 環境保全のために日常生活で行っていること



環境保全のために日常生活で行っていることを聞いたところ、「実施している」は<(ア)節電に努めている>(54.7%)、<(イ)冷暖房の温度設定を控えめにする>(55.1%)、<(ウ)車の急発進・急加速はしない>(53.3%)がいずれも5割台半ばとなっている。<(エ)できるだけ公共交通機関を利用する>(39.6%)は、約4割となっている。

(2) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加経験

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加経験を聞いたところ、最も多かったのは「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(37.4%)が約4割となっている。「参加したことがある」(17.8%)は、約2割である。



《「環境保全に関する取り組みについて」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、86人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

車がないと生活できない地域に住んでいます。(女性・40代・山武地域)

公共交通機関は数が少ないので使いにくい。(女性・20代・東葛飾地域)

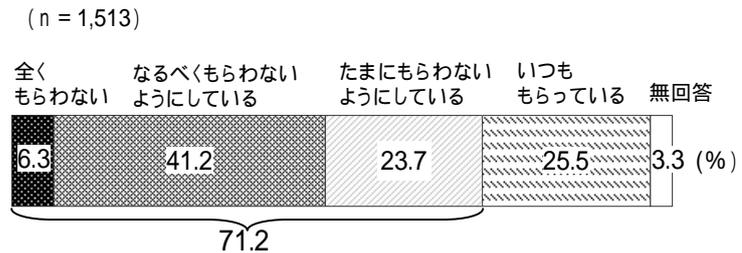
樹木の伐採を道路の見直し、悪化、老衰の為に切り取るのではなく、取り払っても新しい苗木を植えて、景観保全に努めてほしい。ただ切り取るだけでは能がないのでは。

(男性・60~64歳・印旛地域)

9 レジ袋の削減について

(1) 買い物をする時のレジ袋受け取り状況

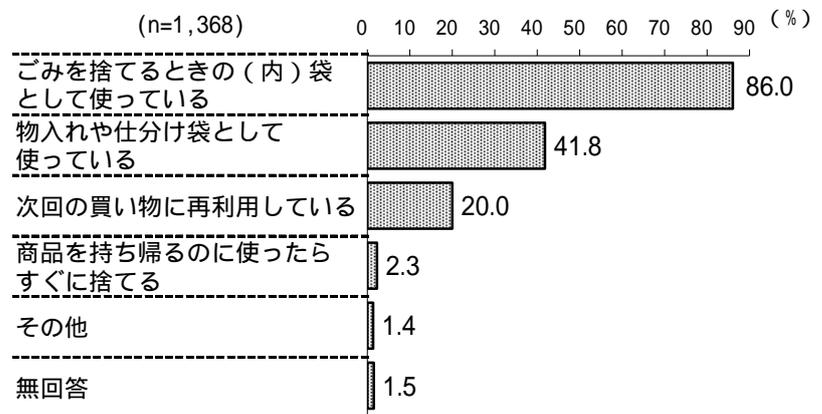
買い物をするときにレジ袋をもらうかどうかを聞いたところ、「全くもらわない」(6.3%)、「なるべくもらわないようにしている」(41.2%)、「たまにもらわないようにしている」(23.7%)を合わせた『もらわないようにしている』(71.2%)は、7割を超えている。



(1-1) 買い物でもらったレジ袋の活用方法

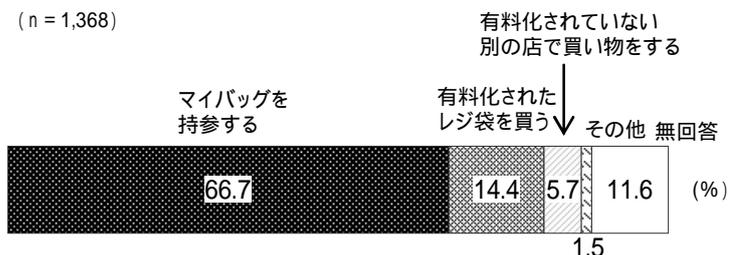
(複数回答：2つまで)

レジ袋を「なるべくもらわないようにしている」、「たまにもらわないようにしている」、「いつももらっている」と回答した人(1,368人)に、買い物でもらったレジ袋の活用方法を聞いたところ、「ごみを捨てる時の(内)袋として使っている」(86.0%)が8割台半ば、次いで「物入れや仕分け袋として使っている」(41.8%)となっている。



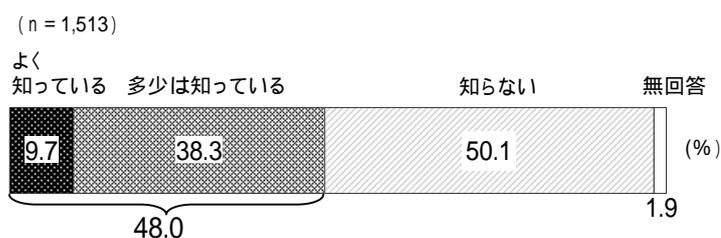
(1-2) レジ袋が有料化された場合の対応

レジ袋を「なるべくもらわないようにしている」、「たまにもらわないようにしている」、「いつももらっている」と回答した人(1,368人)に、レジ袋が有料化された場合の行動について聞いたところ、「マイバッグを持参する」(66.7%)が最も多く6割台半ばである。次いで、「有料化されたレジ袋を買う」(14.4%)、「有料化されていない別の店で買い物をする」(5.7%)となっている。



(2) 全県的なレジ袋削減の取り組み認知度

全県的なレジ袋削減の取り組みについて聞いたところ、「よく知っている」(9.7%)と「多少は知っている」(38.3%)を合わせた『知っている』(48.0%)は、約5割となっている。



《「レジ袋の削減について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、146人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

近所のスーパーでもマイバッグ派はまだ少ないと感じています。ゴミ袋1枚でどれだけのCO2削減になるか例を挙げて、わかりやすいパネル表示などしてはどうかと思います。これも個人の感じ方で、ひとりくらいという安易な考え方から、みんなでマイバッグの考え方に変わる強い啓発をすべきだと思います。(女性・50代・海匝地域)

全て有料化(レジ袋が)になるのはきつい面があるが、マイバッグを持参する取り組みは推進すべきだと思う。(女性・20代・君津地域)

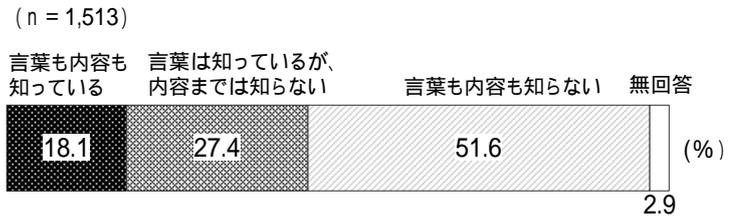
レジ袋を無くすことがエコの様に言われていますが、レジ袋がなくなれば代替品が必要になるので、無くすことでなく再利用をPRすべきである。(男性・65歳以上・東葛飾地域)

学校・幼稚園で時々「スーパーのレジ袋を持ってくる」などということがある。なので時々レジ袋も必要かな。(女性・30代・千葉地域)

10 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度

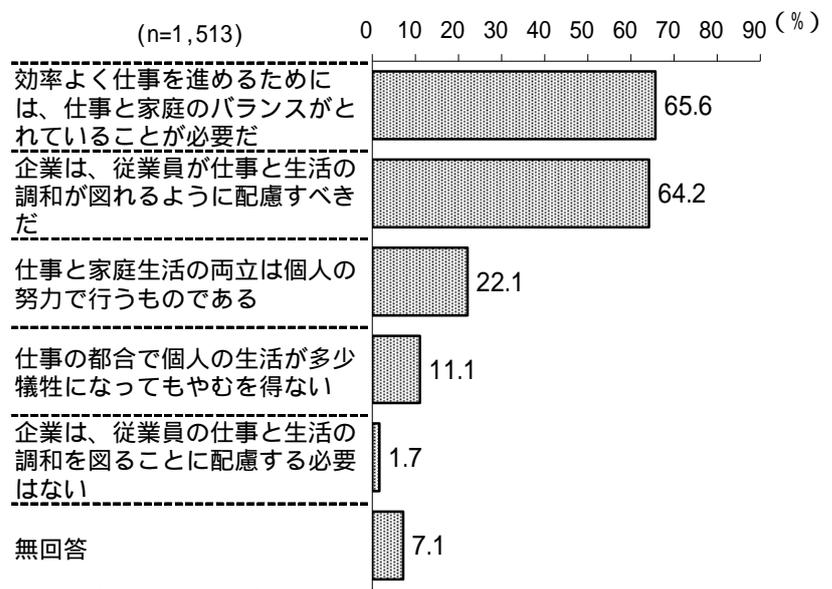
「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の言葉の認知について聞いたところ、「言葉も内容も知っている」(18.1%)は、約2割、「言葉は知っているが、内容までは知らない」(27.4%)は約3割となっている。



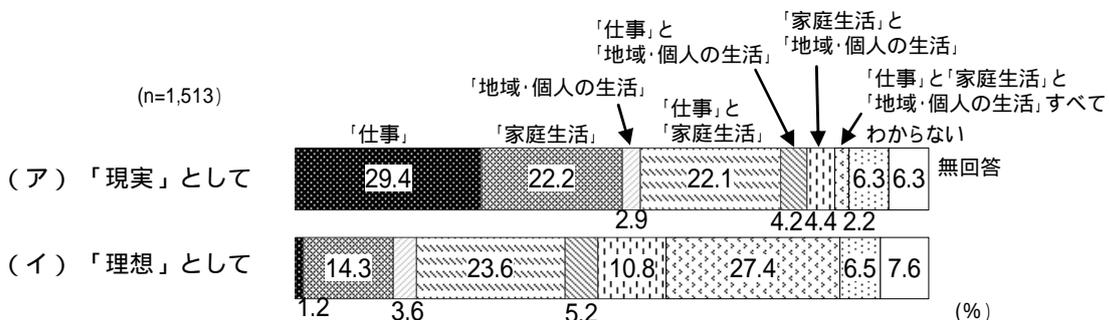
(2) ワーク・ライフ・バランスについて賛成できること

(複数回答：いくつでも)

ワーク・ライフ・バランスについて、賛成できる意見を聞いたところ、「効率よく仕事を進めるためには、仕事と家庭のバランスがとれていることが必要だ」(65.6%)、「企業は、従業員が仕事と生活の調和が図れるように配慮すべきだ」(64.2%)が共に6割台半ばと多くなっている。

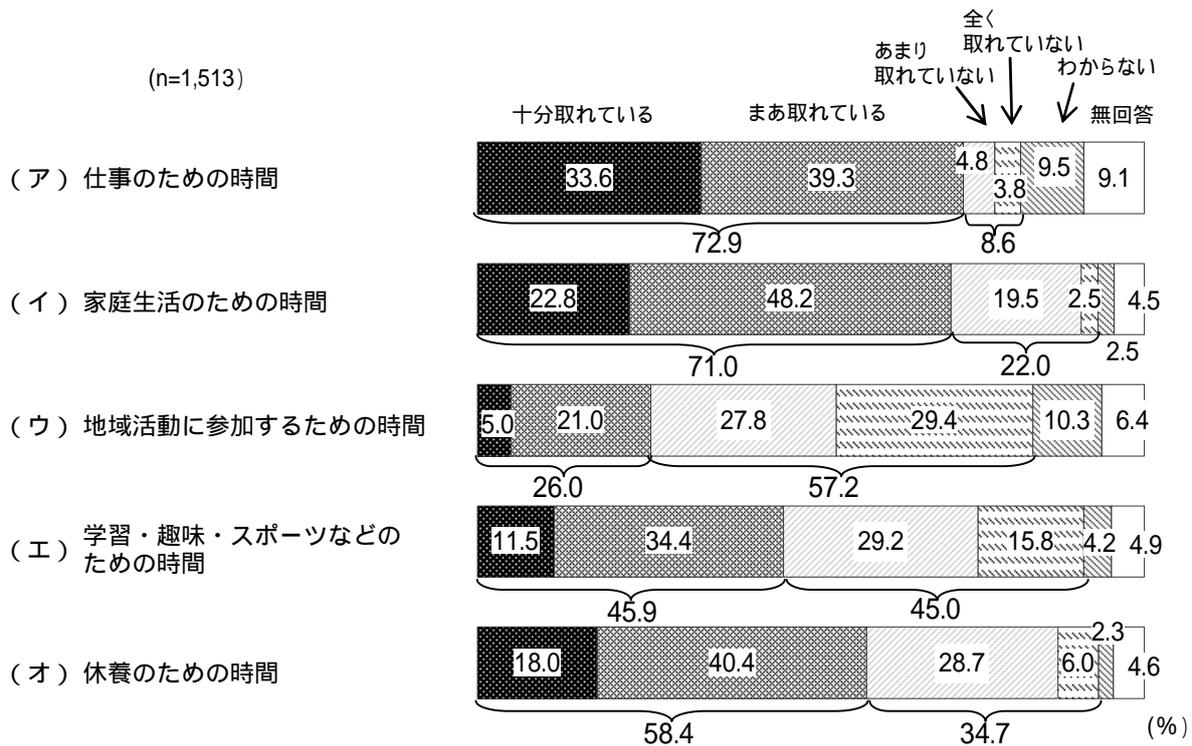


(3) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度



生活の中の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について聞いたところ、現実として<「仕事」を優先>(29.4%)が約3割、理想として<「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて>(27.4%)が約3割となっている。

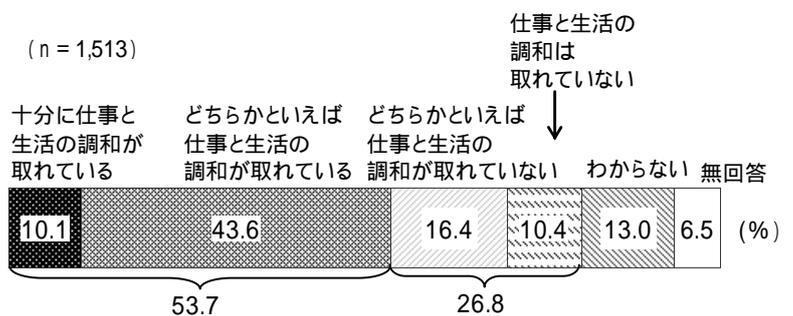
(4) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」「学習・趣味・スポーツ」「休養」といった時間の確保



普段の生活で「仕事」「家庭生活」「地域活動」「学習・趣味・スポーツ」「休養」といった時間の確保が出来ているかどうか聞いたところ、「十分取れている」と「まあ取れている」を合わせた『取れている』が多かったのは、<(ア)仕事のための時間>(72.9%)、<(イ)家庭生活のための時間>(71.0%)で、共に7割を超えている。

(5) ワーク・ライフ・バランスの実現具合

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現具合を聞いたところ、「十分に仕事と生活の調和が取れている」(10.1%)と「どちらかといえば仕事と生活の調和が取れている」(43.6%)を合わせた『調和が取れている』(53.7%)は、5割台半ばとなっている。一方で「仕事と生活の調和は取れていない」(10.4%)と「どちらかといえば仕事と生活の調和が取れていない」(16.4%)を合わせた『調和が取れていない』(26.8%)が2割台半ばとなっている。



《「ワーク・ライフ・バランスについて」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、121人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

「ワーク・ライフ・バランス」について、日常生活の中ではあまり聞かないように思う。TVでそのような話が出ていることがあるように思う。リストラで仕事は残業等多くなっていて、寝に帰るだけの平日になっている事も多い。量を減らし、人を増やし、分担に出来れば、多くの人が従事し、家庭時間の確保になるが、お給料が減る事で生活がきつくなるとは、家庭生活も楽しめない。

(女性・50代・葛南地域)

今はどちらかといえば不満はないですが、これから子供を持つ身なので、子育てと親の介護等含むと、仕事を続けていけるのかどうか不安を感じます。(女性・30代・東葛飾地域)

仕事と生活の調和の必要性について、学校教育の中や会社の社員教育の中で教育していくことも必要だと思いました。(男性・50代・香取市)

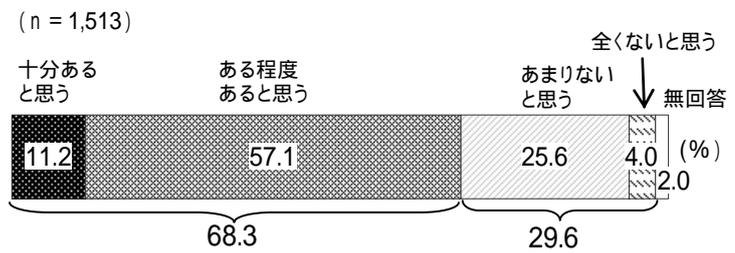
日本人には特に仕事を優先＝当たり前という認識が強いと思う。残業して当たり前、休みに仕事して当たり前。そういう上司がたくさんいる。(女性・30代・葛南地域)

まだまだ男性の家事・育児への参加意識が低い。「家族サービス」等の死語が未だ職場で使われている。家族との時間を増やすために仕事を効率よく進める努力が必要だが、周囲の男性の意識を変えるためには、職場では管理職に対する研修が大切だ。(男性・30代・千葉地域)

11 食育について

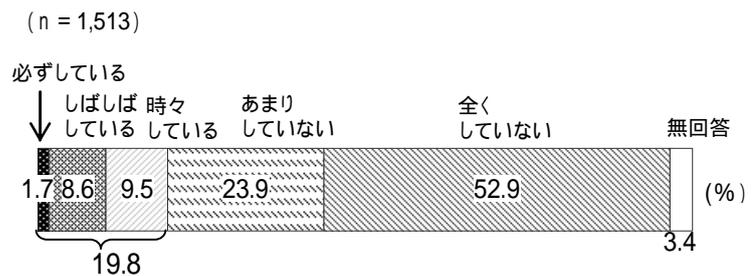
(1) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識について聞いたところ、「十分にあると思う」(11.2%)と「ある程度あると思う」(57.1%)を合わせた『あると思う』(68.3%)は、約7割となっている。一方「全くないと思う」(4.0%)と「あまりないと思う」(25.6%)を合わせた『ないと思う』(29.6%)は約3割となっている。



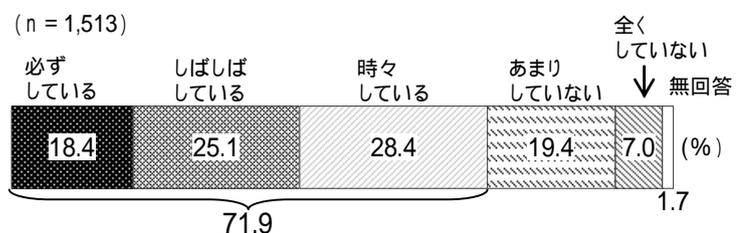
(2) 県や国が策定した食生活上の指針の活用状況

県や国が策定した食生活上の指針の活用状況を聞いたところ、「必ずしている」(1.7%)と「しばしばしている」(8.6%)「時々している」(9.5%)を合わせた『している』(19.8%)は、約2割となっている。一方、「全くしていない」(52.9%)は5割を超えている。



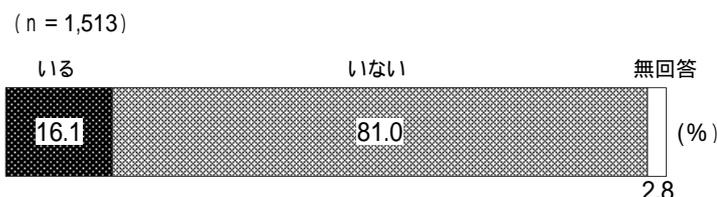
(3) 食を通じたコミュニケーションの充実度

食を通じたコミュニケーションの充実度を聞いたところ、「必ずしている」(18.4%)と「しばしばしている」(25.1%)「時々している」(28.4%)を合わせた『充実させている』(71.9%)は、7割を超えている。



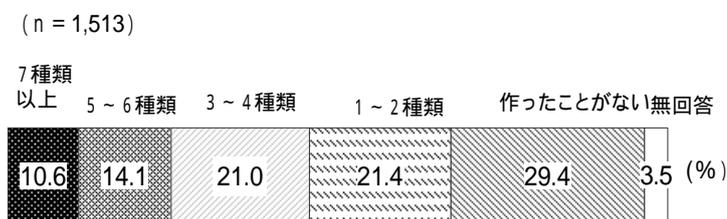
(4) 直近1年以内の農林漁業に関する体験 参加率

本人ならびに家族の直近1年以内の農林漁業に関する体験の参加率を聞いたところ、「参加したことがある人はいる」(16.1%)は、1割台半ばとなっている。



(5) 郷土料理・伝統食・行事食などの認知度

家庭で作ることがある郷土料理・伝統食・行事食などのメニュー数を聞いたところ、「7種類以上」(10.6%)が1割、「5～6種類」(14.1%)が1割台半ば、「3～4種類」(21.0%)「1～2種類」(21.4%)は共に2割を超えている。一方、「作ったことがない」(29.4%)は約3割となっている。



《「食育について」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、106人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

ガイドブックの存在を知らなかった。どのように周知されているのか？広報等でもあまり見かけないが、もっと周知しても良いのではと思う。(男性・50代・葛南地域)

ガイドブックやバランスガイドを見たい。でも、一緒に食卓を囲む機会がないと作るのももったいない。仕事で時間がないと...(女性・30代・葛南地域)

地域の郷土料理がわかりません。子供達が学校行事で農業を体験する機会があればいいと思います。(女性・30代・千葉地域)

バランスの良い食生活がいかに大切かは、年を重ねてやっとわかってきたくらいなので、それを子供達に伝えていくことは重要だと思います。家庭での食事の大切さを親子で話す機会を多く持つことが大切。(女性・50代・海匝地域)

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、232人から延べ278件の回答が寄せられた。
記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

県政全般に関する要望

行政というのは、県民の利益の為にやるもので、公務員は自分の利益のために仕事をしているのではなく、仕事の量によって報酬を得るという心構えで仕事についてほしい。

（男性・65歳以上・葛南地域）

県政情報の発信や活動のPRについて

アンケートをうけて、初めて知ることが多く感じた。興味があるのに以前に、知る術がない気がする。千葉県には、こんなサービスがあり、住みやすいということが誇れるようになればいいと思った。（男性・40代・東葛飾地域）

便利な交通網を整備する

行政では送迎をしていないので、高齢者が利用する病院、買い物など移動手段がないので、運転ができなくなると、生活ができなくなるのが不安なので、行政は地方の交通手段を考えてほしい。

（女性・60～64歳・夷隅地域）

道路を整備する

房総の方へ行きたくても、車で混んで渋滞が多いので、これでは県外の人には来気になれないと思います。もっとスムーズに房総方面に行ける道路があったら、県外の人でも大勢来ると思う。千葉市を通らないでも房総方面に行けたら、もっと観光客が増えると思います。道路状況が良くないと思います。（女性・65歳以上・東葛飾地域）

次世代を担う子どもの育成支援を充実する

子育て支援をもっとしてほしい。江戸川区から越してきたのですが、子供の医療費が、最初の頃かかることを知らなくて驚きました。子供は何かと病院によく行きます。子供の医療費を無料にして頂けると、とても助かります（1日2～3件かかることもあるので...）。（女性・30代・千葉地域）

高齢者の福祉を充実する

高齢者がいつまでも元気に暮らせる町にしてほしい。（男性・65歳以上・東葛飾地域）

調査について

今回のアンケートについて、県としての立場はわかりませんが、県民個人の意見を統計してもそれが正しいかは疑問です。「ないよりあった方がよい」のは当たり前です。いくら予算があっても足りる訳がありません。今こそ国民の教育を根本から変えなくてはいけない時期にきていると思われます。（女性・20代・君津地域）

学校教育を充実する

千葉県は公立学校の教育内容が素晴らしいよ、学力をつけたいのなら千葉県へ住むと得だと言われるような、教育の充実を図ってほしい。（女性・40代・東葛飾地域）

東京電力福島第一原子力発電所事故から県民を守る

放射能問題、除染の必要性、子供がいるので不安です。（男性・40代・東葛飾地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、131人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

答える側、時間をかけて書いております。また、この様なアンケートを作成する際、貴重な税金を投入していることでしょうか。その点をふまえ、アンケート結果を十分に加味し、千葉県のために成果を出して下さい。期待しております。(女性・40代・東葛飾地域)

これまで県政に対する関心がなかったように思う。今回の世論調査を機会に、県政に関心を持っていきたい。(男性・60~64歳・長生地域)

幅広い年代の人がいるから仕方ないかもしれませんが、マークシート式の方が効率がいいと思いました。質問項目が多くて大変でしたが、ぜひ住民1人の意見として、今後に活かしていただきますようお願いいたします。(女性・40代・山武地域)

この調査結果が具体的にどのように反映されているのかが我々にもより分かるようになると、ここに記載されているようなことを、個人がより意識したり、地域に対して関心を持つようになると思う。よろしくお願い致します。(女性・20代・東葛飾地域)

インターネットでもできるようになると、回答者も増えて集計もしやすくなると思います。
(女性・30代・印旛地域)

言葉が難しくて多々理解出来ないところがありました。少しわかりやすい質問内容だったらいいなと思いました。(女性・20代・東葛飾地域)

3000名の県民の1人として、私が選ばれたことに感謝します。1問1問責任を持って回答しましたが、知らない事も有り、またインターネットの活用も出来ず(無知の為)。問27では本、新聞毎日読んでますが、図書館の利用しない事に気づきました。すばらしい図書館が有るのに！
(男性・65歳以上・印旛地域)

世論調査の結果が知りたいので、千葉県の広報紙に載せていただきたいです。
(男性・30代・東葛飾地域)

このような機会を与えていただきまして、ありがとうございました。千葉県は素晴らしい都市ですので、自分達も協力して県民の力でもっと良い街づくりに貢献していきたいと思います。
(女性・50代・印旛地域)

時間を取られるので、もう少し簡単にしてほしいです。しかし県民の意見を聞くことは大切だと思うので、3000名ではなく、もっと沢山の意見を聞くべき。(男性・20代・千葉地域)